

# ケミカルシューズ 業界の概況

## 1. ケミカルシューズ業界の誕生と業界発展の歴史と将来

- (1) 明治 42 年神戸ダンロップ護謄株式会社が設立されたのを契機に神戸においてゴム産業が発達した。
- (2) 大正中期ゴム履物工業が興り、当初はゴム長、地下足袋など総ゴム靴であったが、後に運動靴も生産されるようになった。
- (3) 戦後のゴム履物は羽が生えて飛ぶ勢いであったが昭和 25 年頃からは業界環境の変化に合わせて色々な材料で様々な靴を生産するようになり、昭和 27 年頃、第 3 の靴としてケミカルシューズが神戸で誕生した。
- (4) 昭和 20 年代後半に生まれたケミカルシューズは、30 年代初期の発展成長期、後半の市場浸透期、40 年代前半の安定期を経て現在に至っている。
- (5) 素材の開発、改良、製造技術の改善、そしてファッション商品としてのデザイン開発能力の育成により発展し、靴業界において一つの分野を確立した。
- (6) 当業界は一方輸出産業として発展してきた歴史がある。
  - ア) 昭和 46 年まで、当時の国策に沿って外貨獲得に一役を担っていた。
  - イ) その後の昭和 46 年ドルショック、48 年 2 月の円フロート制実施、11 月オイルショックにより輸出は壊滅的打撃を受けた。
  - ウ) その後、輸出専門メーカーは大部分が内需に転換を図った。
- (7) 昭和 40 年代後半からカジュアル化の波にのり当業界の得意分野として躍進し、高付加価値化で生産額を伸ばした。
- (8) 平成 7 年 1 月の阪神・淡路大震災で企業の約 8 割が壊滅的打撃を受け操業不能に陥り、現在も安価な輸入品の攻勢で大変厳しい状況が続いている。
- (9) 平成 7 年 5 月には業界の主な団体に呼びかけケミカルシューズ産業復興研究会を設立し、研究会は日本ケミカルシューズ工業組合、神戸ゴム工業協同組合、神戸シューズ卸協同組合、神戸靴資材総合協会、兵庫県軽合金鑄造工業協同組合の五団体及び兵庫県・神戸市とケミカルシューズ産業の復興を支援する学識経験者などで構成され、業界の復興について議論を重ね、平成 8 年 6 月「くつのまち・ながた」復興プランを発表した。

## 生産高の推移

年次	生産数量（万足）	生産金額（百万円）	組合員数	従業員数
昭和56	4,602	74,933	262	6,939
昭和57	4,563	73,986	250	6,815
昭和58	4,523	73,030	251	6,839
昭和59	4,749	76,987	248	6,876
昭和60	4,740	77,766	244	6,807
昭和61	4,402	72,767	240	6,769
昭和62	4,284	71,862	238	6,771
昭和63	4,382	74,813	239	6,739
平成1	4,536	80,247	238	6,764
平成2	4,475	86,588	241	6,739
平成3	4,087	82,035	237	6,745
平成4	3,435	71,495	236	6,709
平成5	3,228	68,436	233	6,567
平成6	3,131	65,987	226	6,444
平成7	1,416	28,514	214	3,640
平成8	1,626	36,535	204	3,621
平成9	1,687	41,694	202	3,703
平成10	1,851	45,878	192	3,778
平成11	2,118	52,545	185	3,739
平成12	2,096	52,232	177	3,689
平成13	2,060	51,421	167	3,610
平成14	2,020	51,263	155	3,431
平成15	1,981	50,889	143	3,296
平成16	1,932	50,042	137	3,200
平成17	1,908	50,020	126	3,185
平成18	1,906	50,010	125	3,210

※上記データは日本ケミカルシューズ工業組合加入企業についてであり、神戸地区以外のデータを含む